

# 適正施設ガイドライン

【イタセンパラ *Acheilognathus longipinnis*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

## 1 飼育環境

### 1-1 水温

屋内飼育で飼育する場合には、18～26℃を目安とするが、気温に準ずる形で問題ない。しかし、一日のうちに、温度変化が急激な場所、著しく高水温や低水温になる場所は適さない。どうしても飼育しなければならない場合は、クーラーやヒーターを設置して温度変化を少なくする必要がある。

### 1-2 設置場所

上記の温度条件を満たす場所が望ましく、日照、気温、水温等の概日・概年リズムが阻害されないような配慮もあるとよい。また、水槽の前を頻繁に人が行きかう場所などでは、魚が落ち着かないことがあるので避けた方がよい。必要に応じて、水草や流木など隠れ家を設置することや、水槽に目隠しを施すなどの工夫が必要である。

### 1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

照明時間は夏と冬で自然日長にあわせるとよい。照明は自然光、人工照明（蛍光灯、LED 灯のどちらでも可）のどちらでもよいが、自然日長の方が繁殖（成熟）に適している。直射日光があたる場合は、水温が急激に変化する恐れがあるので注意しなければならない。

### 1-4 水槽サイズ（面積、容積）

水槽の容積は、魚の成長により変更することが必要である。屋内飼育では、仔稚魚については 30 cm水槽（30×20×25 cm、容量 15ℓ）～60 cm水槽（60×45×45cm、容量 120ℓ）程度のガラスまたはアクリル水槽、未成魚・成魚については 60cm 以上のガラスまたはアクリル水槽を使用。飼育密度は、仔稚魚では 30cm 水槽内に 30 尾前後、未成魚・成魚では 90 cm水槽（90×45×45cm、容量 180ℓ）内に 10 尾前後が望ましい。屋外飼育では FRP 水槽（ex. 直径 500×高さ 50 cm、容量 9.8t）やコンクリート水槽など大きめの水槽で粗放的に飼育すると良い。

### 1-5 構造、設備、水槽の数

#### 1) 卵・仔稚魚

底砂は特に必要ない。30cm 水槽などの小型水槽で飼育可能。ろ過はスポンジフィルターなどを使用。遊泳力が弱いので、循環水やエアレーションによる流れは弱いほうがよい。

#### 2) 未成魚・成魚

底砂は特に必要はないが、使用する場合は川砂や大磯など用いる。魚が落ち着かない場合は、隠れ家として流木や水草を設置する。ろ過は底面ろ過、外部式ろ過機など使用。飛び出し防止として蓋を設置する。

### 1-6 飼育水（水質）

河川水や井戸水または水道水の汲み置きを使用。



写真 1：成魚飼育・繁殖水槽



写真 2：成魚飼育・繁殖水槽



写真 3：稚魚育成水槽